

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503585		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの杜(ひのき)		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目7番3号		
自己評価作成日	令和3年8月11日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503585-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「敬う心、尊厳ある暮らし」を念頭に利用者の今までの人生で築き上げてきたものを尊重し、安心し楽しくここでの生活が心地良いと感じてもらえるような支援を心掛けてます。その為にケアの方法を記録や申し送りノート、カンファレンス等を通して常に見つめ直し、時に家族と連絡を取り近況報告や情報交換を行い、出来る限り本人と家族の要望に応えられるように努めています。現在はコロナ禍ということもあり、以前のような外出行事などは控えてますが、その分ホーム内で季節に合わせた行事を計画し行うことで利用者には楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームいずみの杜」は、JR平和駅から徒歩圏内にある3階建て建物の2階と3階部分にある2ユニットのグループホームで1階は同法人の高齢者住宅として利用している。事業所では、感染症対策を徹底し外部からの訪問者には検温と手指消毒をするなど、利用者の安全を守り利用者がいつまでも楽しく、元気良く健康に過ごせることを常に考えている。共有部分は明るく快適であり、ゲームや体操などを楽しみながら利用者同士がくつろぎ、職員と会話するなど自由に過ごしている。壁には利用者と職員が共同で作成した作品が掲示されている。今までのような多人数での外出が難しい状況であっても職員が同行し近隣への散歩や、希望があれば短時間の買い物にも出かけている。管理者は利用者の体調変化や近況など些細なことも家族へ連絡しており、生活状況など近況報告をすることで、面会制限のある期間も含め、家族に安心してもらえるような体制を取っている。食事面では利用者に日々の会話から食べたものを聞き取り、それをメニューに取り入れ栄養バランスと彩りの良い家庭的な献立を作っている。事業所では管理者を中心に職員が利用者本位の暮らしで、暖かな家庭の雰囲気を感じられるよう寄り添いながら接している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えていく (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすい所に掲示し常に確認できるようにしている。最近、管理者の交代もあり今一度新人職員も含め共通認識を持てるように取り組んでいる。	事業所のパンフレットや各ユニット入口の前に「敬うこころ・尊厳のある暮らし」の理念を掲示しており、職員採用時にも説明している。全ての職員が利用者とかかわる場面で、理念に基づいたケアができているか確認の必要性を認識している。	内部研修や会議、個人面談の機会を活用しながら、職員個々が理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいるか確認するための具体的な取り組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は商店街の催しや、夏祭り、雪明り見学など、季節に合わせた行事を行っていたが、現在コロナ禍の為、自粛している。	感染症対策のため今年度も地域と交流を持つことは難しいが、事業所前で近隣住民と会ったときは挨拶を交わすなど、可能な限り地域の一員としての交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍ということもあり、参加交流は図れていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、人が集まっの会議は行っておらず書面にて実施している。	昨年度より来訪を制限しているため運営推進会議は書面会議となっているが、事業所の報告を中心に議事録を作成し保管している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人代表者、役員、管理者が状況に応じた行政管理局と連絡を取り、相談、情報交換などを行っている。	都度必要な提出書類は管理者が作成し、法人役員が出向き提出をしている。保護課からの依頼で該当利用者の生活状況の確認は電話と書面での報告となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、身体拘束・虐待防止適正化委員会を行っている。原則として身体拘束は行っていないが廃止をきっかけに「より良いケア」を目指し、基本的ケアを再度確認し職員全体が意識を高め情報を共有していく。	身体拘束・虐待防止適正化委員会を3か月ごとに開催し記録も保管している。現在は、これらの研修と身体拘束・虐待防止に係る指針を見直し、新たに整備するように検討をしている。	制度に基づき、改めて現在の会議の在り方に沿った指針を整備し共有することを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内での情報の共有、事例の報告等、検討し確認をしている。		

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解出来ている職員もいるが、必要性や活用支援までには至っていない。職員は研修などを通じて、日常生活自立支援事業や、成年後見制度について学ぶ機会を作り、利用者様に合わせた支援につなげていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者、家族にホームを見学してもらった上でパンフレットや必要書類(入居の案内等)を用いて説明をしている。利用者、家族の納得、理解を得ているか一つ一つ確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来ない家族や、後見人を利用している方を含め、電話で都度、今の様子をお伝えしている。利用者の状態を詳細にお伝えできるように職員全員が日々のケアに努めている。	体調や状況に変化の見られる場合は、常に管理者から連絡し家族からの意見をもらっている。入居間もない利用者の家族にも暮らしの様子を連絡している。利用者や家族からの要望は運営に反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された意見は、管理者を交え聞き入れている。聞き入れた意見は運営に反映されるように努めている。	職員の状況に応じて管理者が面談し、ストレスや悩みなどがいないか、解決できる方法を話し合うなどの相談をしている。職員は役割分担を通して意見を出しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個々の面談などを通して整備環境の向上を図りたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人の力量や性格の把握に努め必要に応じて個人面談を行っている研修や資格取得等の斡旋はコロナ禍ということもあり、話はすすめていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をコロナ禍ということもあり、作れていない。今後リモート会議などを行えるような設備を検討したい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に概要説明がある。本人の要望、家族の要望、生活歴等を聞き、職員全員は情報を事前に把握し、安心して生活が出来るような体制を整え、1日でも早く馴染んでもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する前から概要説明、ホーム内事前見学を行っている。利用を開始してからは家族の不安や不満、要望等を聞き入れ、それに対する対応について説明をしながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を傾聴させて頂き、その内容がホームではどのように対応出来るかを提案し、実践に結びつくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを基本とし、出来ることは自身で行っていた。その中で出来ないことや困っている事を一緒にに行い、関係性を築くと共に支援の見極めをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で近況報告をし、数少ない機会を利用しながら、関係性を築けるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には、馴染みの物をできる限り持ち込んで配置をし、環境の変化に少しでも混乱を招かないように心掛けている。面会希望は少ないが、コロナ対策をした上で、面会は可能となっている。	事業所では面会を予約制にしており、家族の訪問時は感染症対策をとりながら利用者と面会の機会を設けている。利用者の希望があれば職員同行で買い物に出かけている。通院の帰りに馴染みの地域を通して帰ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の空間を大事にした上で、いつでもフロアでみんなが集える環境作りも心掛けている。毎日の体操や歌、季節に合わせたレクなどを通して関りが持てるように支援している。花札やおセロをしたり、プランターの苗植えなども行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、交流は可能であり、今まで同様の関係性を大切にし必要に応じては、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや要望、思いなどを傾聴しできる限り、意向にそえるように対応している。困難な場合でもできる限りの努力はしている。	希望や意見を伝えることができる利用者も多く、利用者のペースで生活ができるよう日々意向の把握をしている。情報を基にアセスメントシートは定期的に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などの情報を再度確認し、本人との普段の関りからも情報収集している。家族からお話を伺い可能な限りの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活のリズムをできる限り尊重し関わっている。行動や会話などは記録に残し職員全員で共有しここにいる意義を感じて頂けるような支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定期的にかンファレンスを開催、ケアを担当する介護職員から情報を収集している。管理者もご家族様との会話を通じ要望を汲み上げている。計画作成担当者がこれらの情報をもとに介護計画を作成している。	利用者の担当者が主になりモニタリングを行いカンファレンスにて共有している。それを基に家族の希望を取り入れた短期3か月、長期6か月の計画を作り上げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別担当者を決め、記録作成を行っている。利用者様の普段の様子は記録に残し、申し送りノートや病院受診ノートなども活用しながら、職員間で情報の共有を図りながら、計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて本人や家族の要望に応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人代表者が地域との繋がりを持ち、地域資源を利用しやすい状況であったが現在はコロナ禍でもあり、目立った動きはない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期にかかりつけ医(内科)の往診対応がある。状況に合わせて他科病院への紹介などもしている。	毎月内科の定期往診があるほか、毎週事業所の看護師が身体状況の確認や爪切り、特変時の緊急対応をしている。通院は看護師が管理者が同行している。	

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付いた状況などを伝え判断や処置に迷った時は診てもらったり。指示を仰ぐ体制が出来ている。必要に応じた病院受診も介護職員と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会。もしくは家族・医師・看護師・相談員と情報交換、相談をしていながら、いつでも受け入れられるように体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針、緊急時、終末期、医療行為については説明している。状態が重度化した場合は、家族と密に連絡をし家族の要望を聞き入れ、かかりつけ医と連携を取りながら対応に努めている。	利用開始時に重度化対応指針を取り交わしている。原則として医療行為が必要になったり食事の経口摂取が出来ない場合は入院となるが、利用者の望む事業所での暮らしが継続出来るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は順次定期的に救命救急講習を受講していたが、現在はコロナ禍の為、行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前は消防署立ち会いの中、毎年避難訓練を実施していたが、現在はコロナ禍の為行えていない。	停電時に利用できるランタンを新たに購入し非常時に備えている。食料は1週間程度の備蓄がある。災害訓練は感染症の流行により昨年より出来ていないが、来月に訓練を予定している。	自然災害発生時における対策や訓練について、更に次の災害訓練で検討を行う意向であるので、その取り組みに期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を考慮したうえで、自尊心を傷つけないような声掛けや対応を心掛けている。	個人記録類は他者の目に触れぬ場所で保管している。利用者への言葉遣いでは、人手不足も相まり、動きを制止したり注意するような語調になる場合がある。	認知症の理解や接遇についての学ぶ機会が設けられ、課題改善に向け取り組まれる事を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から表現しやすい関係性を築けるように、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを優先し、その過程で職員が行わなければならない業務を盛り込むように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的に行っている場合は基本見守り、状況に応じて支援している。自身で行えない方の場合には季節や好みなどを考慮し支援している。又、定期的に訪問理美容も利用している。		

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みのものを把握し、まんべんなく提供できるような食事作りを心掛けている。	献立は調理担当者がその都度献立し利用者の好みの把握もなされ提供している。季節の行事食にも力を注いでいる。大きな寿司桶で利用者が餅米をついて形成したり、趣味ごとをしながらおやつをつまむ姿があるなど家庭的である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を意識しながら記録を通し、不足にならないように努めている。嚥下に応じた食事形態の工夫、食事をしやすいような食器選びなどの工夫にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床・就寝時の口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を預かり洗浄も行っている。口腔内で気になる事があれば、訪問歯科を通じ、診療・指導して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表に記録し排泄パターンを把握するように努めている。状況に応じてトイレの声掛けなども行っている。	自らトイレに向かうなど排泄が自立している利用者もいるが、誘導や介助が必要な利用者が多い状況である。夜間帯の居室巡回でも利用者の状態に応じた排泄支援を行っている。排泄状況を記録し、リズムやパターンを把握している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を含んだ食材などの提供を心掛けている。便秘の際は主治医と相談し、改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回で基本午後に入浴時間としているが、利用者様の気分や希望に対応出来れば午前入浴も行っている。誘導までが困難な利用者には職員間で情報交換をしながら、声掛けなどに工夫をしている。	入浴日やシャワー浴など対応内容が一覧で分かるチェック表を活用し、個々の入浴状況が確認できる仕組みがある。利用者からの入浴希望や洗身の仕方など、本人が満足できる入浴となるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安眠できるように、日中は利用者が負担と感じないように活動の場を作り、生活リズムを崩さないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師が利用者全員の薬を確認後、職員が再度確認をし、薬剤情報を個人ファイルに管理している。職員間のみで情報を共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、やりたい事を個々で見極め、健康状態などを考慮した上で行えるように支援している。		

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(ひのき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は季節に合わせた外出行事を必ず行っていたが、現在はコロナ禍の為、自粛している。	感染症の流行により外出行事は自粛中である。状況を鑑みつつ、感染対策を講じ車でドラッグストアへ買い物に出かけたり、病院受診が外出の機会となっている。プランターの野菜の世話を兼ねて外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則家族が管理している。利用者の希望があれば家族と相談しお金を所持してもらっている。又、預かり金を管理しており、希望時、必要時には使用出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい、手紙を出したいといった利用者様の要望には、都度支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をほどこしたり、行事の写真などを壁面に掲示。又、利用者様が描いた絵や作品も掲示している。天候や体調に合わせた温度調整なども随時行い居心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間は四季が感じられる飾り付けや利用者の作品類が掲示されている。ダイニングには感染対策でクリアパーテーションを設置している。ソファコーナーや椅子の配置を工夫したり、共用部の整理整頓にも努め、ゆったりとくつろげる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席はテレビの観やすさや気の合う方が近くにいるなどの配慮をしている。利用者様の同線を考慮しソファや椅子を各所に配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り大切なものや馴染みの物を持参して頂き配置している。生活していく上で必要な物が出てきた場合、家族に相談しお持ち頂くか、退去者が置いていった物を使用している。配置等は本人の要望を聞きながら安心して過ごせる居室作りを心掛けている。	居室は利用者の好みの家具や調度品類が置かれ、家族のサポートも時々得ながら安心して過ごせる環境支援に努めている。身体状況の変化が見られ居室のレイアウトを変更する場合も本人等と相談している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個々の生活スタイルを把握し、混乱や転倒などの事故が起きないような物の配置、動線の確保を心掛けている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503585		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの杜(かえで)		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目7番3号		
自己評価作成日	令和3年8月11日	評価結果市町村受理日	令和3年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503585-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年8月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「敬う心、尊厳ある暮らし」を念頭に利用者の今までの人生で築き上げてきたものを尊重し、安心して楽しくここでの生活が心地良いと感じてもらえるような支援を心掛けてます。その為にケアの方法を記録や申し送りノート、カンファレンス等を通して常に見つめ直し、時に家族と連絡を取り近況報告や情報交換を行い、出来る限り本人と家族の要望に応えられるように努めています。現在はコロナ禍ということもあり、以前のような外出行事などは控えてますが、その分ホーム内で季節に合わせた行事を計画し行うことで利用者には楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすい所に掲示し常に確認できるようにしている。最近、管理者の交代もあり今一度新人職員も含め共通認識を持てるように取り組んでいく。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は商店街の催しや、夏祭り、雪明り見学など、季節に合わせた行事を行っていたが、現在コロナ禍の為、自粛している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナ禍ということもあり、参加交流は図れていない。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、人が集まっの会議は行っておらず書面にて実施している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人代表者、役員、管理者が状況に応じた行政管理部门と連絡を取り、相談、情報交換などを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度、身体拘束・虐待防止適正化委員会を行っている。原則として身体拘束は行っていないが廃止をきっかけに「より良いケア」を目指し、基本的ケアを再度確認し職員全体が意識を高め情報を共有している。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内での情報の共有、事例の報告等、検討し確認をしている。		

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解出来ている職員もいるが、必要性や活用支援までには至っていない。職員は研修などを通じて、日常生活自立支援事業や、成年後見制度について学ぶ機会を作り、利用者様に合わせた支援につなげていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者、家族にホームを見学してもらった上でパンフレットや必要書類(入居の案内等)を用いて説明をしている。利用者、家族の納得、理解を得ているか一つ一つ確認をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来ない家族や、後見人を利用している方を含め、電話で都度、今の様子をお伝えしている。利用者の状態を詳細にお伝えできるように職員全員が日々のケアに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された意見は、管理者を交え聞き入れている。聞き入れた意見は運営に反映されるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、個々の面談などを通して整備環境の向上を図りたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人の力量や性格の把握に努め必要に応じて個人面談を行っている研修や資格取得等の斡旋はコロナ禍ということもあり、話はすすめていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をコロナ禍ということもあり、作れていない。今後リモート会議などを行えるような設備を検討したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に概要説明がある。本人の要望、家族の要望、生活歴等を聞き、職員全員は情報を事前に把握し、安心して生活が出来るような体制を整え、1日でも早く馴染んでもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始する前から概要説明、ホーム内事前見学を行っている。利用を開始してからは家族の不安や不満、要望等を聞き入れ、それに対する対応について説明をしながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を傾聴させて頂き、その内容がホームではどのように対応出来るかを提案し、実践に結びつくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りを基本とし、出来ることは自身で行っていた。その中で出来ないことや困っている事を一緒に言い、関係性を築くと共に支援の見極めをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で近況報告をし、数少ない機会を利用しながら、関係性を築けるように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室内には、馴染みの物をできる限り持ち込んで配置をし、環境の変化に少しでも混乱を招かないように心掛けている。面会希望は少ないが、コロナ対策をした上で、面会は可能となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の空間を大事にした上で、いつでもフロアでみんなが集える環境作りも心掛けている。毎日の体操や歌、季節に合わせたレクなどを通して関りが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、交流は可能であり、今まで同様の関係性を大切にしながら必要に応じては、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや要望、思いなどを傾聴しできる限り、意向にそえるように対応している。困難な場合でもできる限りの努力はしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などの情報を再度確認し、本人との普段の関りからも情報収集している。家族からお話を伺い可能な限りの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日常生活のリズムをできる限り尊重し関わっている。行動や会話などは記録に残し職員全員で共有しここにいる意義を感じて頂けるような支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定期的にカンファレンスを開催、ケアを担当する介護職員から情報を収集している。管理者もご家族様との会話を通じ要望を汲み上げている。計画作成担当者がこれらの情報をもとに介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別担当者を決め、記録作成を行っている。利用者様の普段の様子は記録に残し、申し送りノートや病院受診ノートなども活用しながら、職員間で情報の共有を図りながら、計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて本人や家族の要望に応えられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人代表者が地域との繋がりを持ち、地域資源を利用しやすい状況であったが現在はコロナ禍でもあり、目立った動きはない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月定期にかかりつけ医(内科)の往診対応がある。状況に合わせて他科病院への紹介などとして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の気付いた状況などを伝え判断や処置に迷った時は診てもらったり。指示を仰ぐ体制が出来ている。必要に応じた病院受診も介護職員と協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に面会。もしくは家族・医師・看護師・相談員と情報交換、相談をしていながら、いつでも受け入れられるように体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針、緊急時、終末期、医療行為については説明している。状態が重度化した場合は、家族と密に連絡をし家族の要望を聞き入れ、かかりつけ医と連携を取りながら対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は順次定期的に救命救急講習を受講していたが、現在はコロナ禍の為、行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前は消防署立ち会いの中、毎年避難訓練を実施していたが、現在はコロナ禍の為行えていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や人格を考慮したうえで、自尊心を傷つけないような声掛けや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から表現しやすい関係性を築けるように、コミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムを優先し、その過程で職員が行わなければいけない業務を盛り込むように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自発的に行っている場合は基本見守り、状況に応じて支援している。自身で行えない方は季節や好みなどを考慮し支援している。又、定期的に訪問理美容も利用している。		

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みのものを把握し、まんべんなく提供できるような食事作りを心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を意識しながら記録を通し、不足にならないように努めている。嚥下に応じた食事形態の工夫、食事をしやすいような食器選びなどの工夫にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床・就寝時の口腔ケアを行っている。就寝時には義歯を預かり洗浄も行っている。口腔内で気になる事があれば、訪問歯科を通じ、診療・指導して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表に記録し排泄パターンを把握するように努めている。状況に応じてトイレの声掛けなども行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を含んだ食材などの提供を心掛けている。便秘の際は主治医と相談し、改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回で基本午後に入浴時間としているが、利用者様の気分や希望に対応出来れば午前入浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安眠できるように、日中は利用者が負担と感じないように活動の場を作り、生活リズムを崩さないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師が利用者全員の薬を確認後、職員が再度確認をし、薬剤情報を個人ファイルに管理している。職員間のみで情報を共有するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、やりたい事を個々で見極め、健康状態などを考慮した上で行えるように支援している。		

グループホーム いずみの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(かえで)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は季節に合わせた外出行事を必ず行っていたが、現在はコロナ禍の為、自粛している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則家族が管理している。利用者の希望があれば家族と相談しお金を所持してもらっている。又、預かり金を管理しており、希望時、必要時には使用出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい、手紙を出したいといった希望はほとんどないが、あった場合はいつでも対応できるようにはしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をほどこしたり、行事の写真などを壁面に掲示。又、利用者様が描いた絵や作品も掲示している。天候や体調に合わせた温度調整なども随時行い居心地よく過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席はテレビの観やすさや気の合う方が近くにいるなどの配慮をしている。利用者様の同線を考慮しソファや椅子を各所に配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り大切なものや馴染みの物を持参して頂き配置している。生活していく上で必要な物が出てきた場合、家族に相談しお持ち頂くか、退去者が置いていった物を使用している。配置等は本人の要望を聞きながら安心して過ごせる居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の個々の生活スタイルを把握し、混乱や転倒などの事故が起きないような物の配置、動線の確保を心掛けている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームいずみの杜

作成日：令和 3年 9月 10日

市町村受理日：令和 3年 9月 15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	最近、管理者の交代もあり、今一度新人職員も含め事業所理念の共通認識を図り、実践につなげていく。	全職員が理念を認識し、理念に基づいたケアを心掛け入居者と関わっていく。	内部研修や会議を活用し全職員に理念を意識付けをする。必要に応じて個人面談も行う。都度、現場に入り職員の実践に向けての取り組み方を見ていく。	6ヶ月
2	6	身体拘束・虐待防止に係る指針が備わっていない。	身体拘束・虐待防止に係る指針を見直し、新たな指針を整備する。またその指針を全職員で共有していく。	新たに整備した指針を基に身体拘束・虐待防止委員会を行う。	6ヶ月
3	35	コロナ禍の為、避難訓練が行えていない。また、災害別のマニュアルが備わっていない。	コロナ禍による緊急事態宣言の解除なども見ながら避難訓練を行う。また、新たな災害別マニュアルを整備していく。	時期を見てからの避難訓練実施。災害別マニュアルの整備。災害時における備品などの把握。災害時における入居者の移動介助方法を記した表を作成。	6ヶ月
4	36	認知症の理解や接遇などを学ぶ機会が設けられていない。	認知症の理解や接遇などを学ぶ機会を設けていく。	職員間で話し合い、学ぶ場としての会議、内部研修などを行う。それぞれの分野に合わせた参考資料なども用意していく。	6ヶ月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。